レッスン：17“M”

テーマ：エクソマトシス

MAC17.WPD/ME/PER13.PK

私の兄弟・姉妹達、

スピリット、光、火の子供達よ。私達は常に神、絶対、神の聖性に抱かれています。

　　以前のレッスンで私達はいわゆるエクソマトシス及び体外離脱の体験について触れました。体外、体の外という言葉は何を意味しているのでしょうか？

　　現在のパーソナリティーには一つではなく、三つの体があることを知っています。思考のセンターであるノエティカル体、感情・気持のセンターであるサイキカル体、そして粗雑な物質界でパーソナリティーが自分自身を現すための手段である肉体です。大部分の人々は、現在のパーソナリティーとして自分は単に肉体である、と思っていますが、そうではありません。肉体は、これらの波動の中で自分自身を現すための手段にすぎません；しかし、現すと言う時、私達は本当に現すのでしょうか？私達は単に、想念・思考や感情の独特の思考・行動の仕方を現しているのです。一般に、私達の行動は感情・気持に基づいており、それらの波動の中で自分自身を表現するたびに、私達はいわゆるエレメンタルを創造しています。しかし、どのようなエレメンタルなのでしょうか？無知の中にいる間は私達は欲望想念を創造し、従って感情・気持が表現の動機、誘因となっており、それゆえ私達が創造するエレメンタルは正しい思考によって創造されたものではありません。

　　さて、エクソマトシスとは何を意味するのでしょうか？私達が現在のパーソナリティーを完全に背後に残して去り、何か他の手段で自分自身を現すのでしょうか？答えはノーです。

エクソマトシスを達成するためには、私達は他の二つの体、つまりノエティカル体とサイキカル体を使う必要があり、これは一部の人々、時には真理の探究者達さえもが考えるような簡単なものではありません。

　　パーソナリティーが意識を保ち、自分の意志でエクソマトシスを達成するためには、彼あるいは彼女はまず初めに現在のパーソナリティーの三つの体を完全に発達させる必要があります。現在のパーソナリティーが無知にある間は、三つの体は発達しておらず、発達していないということは、きちんとした特定の形を帯びておらず、不定形であることを意味します。

　　ですから、これらの体を発達させ、それらの形を再形成し、特に、全く形が整っていないノエティカル体とサイキカル体にフォーカスするためには、まず現在のパーソナリティーを扱う必要があります。

　　最初はこれら三つの体はその中心がハートのセンターにあります。

現在のパーソナリティーが三つの体から構成されていると言うとき、それは良好な健康と現れの諸体として現在のパーソナリティーを記す永遠のアトムを意味します。

　　ですから私達には、形が整っていない三つの体があります。ですから、これら三つの体に働きかけてその形を発達させて整え、**肉体と同じ形にする必要があります。**一般に人間は肉体だけが現在のパーソナリティーであると考えがちですが、違います。

page2

　　粗雑な物質の不定形な永遠のアトムがあると言うとき、それは現在のパーソナリティーのうちで、肉体を通じて表現される他の二つの体が表現されるのを可能にする部分を意味します。それは充電された同じものが、通過して表現されるのを可能とするフィルターもしくはバッテリーに似ています。

人間が無知に置かれている間は、これら三つの体のセンターはハートにあり、それゆえに肉体の健康はそのパーソナリティーの感情・気持の状態に依存しています。それらの体の形が再形成されて整うと、それらのセンターも別々に分かれます。ノエティカル体の中心は最終的に頭のセンターに達するまで徐々に上昇し、サイキカル体はハートのセンターに留まり、肉体の健康のセンターは下降して太陽叢へと移ります。

　　これら三つの体を意識的に使い、肉体とは別の分離した体として使うためには、私達はまず最初にその形を再形成し、整える必要があります。その時初めて、そのパーソナリティーにとってエクソマトシスと呼ばれる現象が可能となるのです；意識的に、あるいは超意識的にと言ってもいいかもしれませんが、肉体から脱してそれらの波動の中、他の実存の世界に存在するのです。

　　なぜ、実存(existence)と言う言葉を使ったのでしょうか？**なぜなら、現在のパーソナリティーは実存の諸世界にのみ存在するからです。**存在の諸世界は現在のパーソナリティーのための世界ではありません。それらの諸世界は、内なる本質であるインナーセルフの特質を完全に表現している魂のセルフ・エピグノシスのための世界です。それは生それ自体の真の現れです。繰り返しますが、エクソマトシスを行うためには現在のパーソナリティーの諸体が完全に発達する必要があり、それまでは不可能です。

　　そうです、多くの人々がエクソマトシスを行い、体外離脱を行ったと主張しています。しかし、現在のパーソナリティーの諸体が完全に発達していない場合には、それらの人々はエクソマトシスを行ったのではありません。実際に起きたことは、彼らの意識が無意識のマインド、つまり彼ら自身の潜在意識、又はいわゆる汎宇宙的潜在意識の中に飛び込んだのです。

なぜでしょう？個人の潜在意識といわゆる汎宇宙的潜在意識の間にはつながりがあるのでしょうか？そのとうりです。なぜなら、全ては全ての中にあるからです；最小のものは最大の中にあり、また最大のものは最小の中にあるのです。それゆえ、本人が決して経験していない出来事を表現するパーソナリティーが、時にはいます。そのようなパーソナリティーの中には、他のパーソナリティーを過去生からの自分のパーソナリティーであると混乱する人もいます。全ては全ての中にあります、しかしそれは私達が求めているものではありません。私達が求めているものは真のエクソマトシスであり、潜在意識の中へのダイビングではありません。

 “エクソマトシス”についてのもう一つのイリュージョン、幻想は、そのパーソナリティーにとっては現実であるが、実際にはパーソナリティー自身が創造するファンタジーによるものです。

パーソナリティーはその幻想の各瞬間を生きることができます；実際、そのフォームとその前のものは、ドラッグの影響下において多くの人々が入る状況と全く同じです。とにかく、真理の探究者は最初に、気づきの上昇を通じて自分のパーソナリティーの諸体を発達させる必要があります；これが啓発への唯一の道です。

page3

　　さて、誰かがいわゆる汎宇宙的潜在意識に同調することができた場合、その結果そのパーソナリティーは何を表現することができるのでしょうか？このパーソナリティーは自分自身が経験していない多くのこと、多くの出来事を現すことができます。そのパーソナリティーは英知のレベルにおける知識でさえも表現することが可能ですが、それは成長、発達の結果としてその現われがあるわけではありません。彼あるいは彼女は媒体になっただけであり、それ以外の何ものでもないのです。真理の探究者である私達は、このような類の現われは求めません。私達が求めるのは私達自身の真の現れ、現在のパーソナリティーとしての真のセルフを示す現れであり、それがどのレベルであろうと構いません。

　　これを行うためには、真理の探究者はまず役者の衣装を脱ぎ捨て、演じている仮面を破壊し、それがどのレベルであれ、その人の思考・行動の仕方を示すその人の本当の現れを表現する必要があります。このレベルから探究者は現在のパーソナリティーを、諸体を扱い、それらを発達させ、形を再形成するする必要があります。さもないと、自分は何かに成功したというふりをしてこのワークを行っても、その人は何事にも成功しないでしょう。そのような場合には、その探究者はますます上手な役者になるだけであり、それ以外の何ものにもなれません。しかし、もし探究者が啓発に向けて進みたいのであれば、そのようなことを望まないでしょう。

　　パワーと能力をコントロールすることができないのに、気づきの上昇の結果としてではなく単にパワーと能力を現すことに魅惑される場合、それらは無知に奉仕するパワー・能力となり、光に奉仕するものではありません。そのようなパーソナリティー達は何か良いもの、時には沢山の良いものを提供してくれるかもしれませんが、彼らが行っている所謂良いものは、最終的には彼ら自身の利益につながるものです。彼らはお返しに何かを求めています。それはあたかも、幼児に鋭利な道具を与えたり、殺人者にナイフを与えるようなものです。それらに魅惑されることは、勿論気づきを上昇させる道ではありません。

　　ですから、真のエクソマトシスは、自分のいわゆる超意識セルフ・エピグノシスを現すために努力し、成功し、その人の真の本質である特質を表現するレベルに到達したパーソナリティーの手の中にだけあるのです。もしこれを“生命の木”の上で関連づけたいのであれば、このポジションは最初のいわゆる十字架での磔（はりつけ）に相当します。これは現在のパーソナリティーのトライアングル（あなたの生命の木の図では、それはB7-C8-A10の間で形成される）です。最初はこのトライアングルは辺が等しくないので、私達はその辺が等しくなるようにワークしなければならないのです。

　　現在のパーソナリティーは、最初の十字架での磔のポイント、つまり現在のパーソナリティーの自己実現のポイントに到達すると、無知のあらゆる限界から自由になり、存在の諸世界における永遠のパーソナリティーに戻ることが可能になりますが、しかし、それを選択しません。現在のパーソナリティーは二元性の世界、二極対立の世界、幻想の世界に留まります。永遠のパーソナリティーとして現れる代わりに、いくらかの制限を通じて現れ続けます。

　現在のパーソナリティーが自己実現のポイントに到達すると、このトライアングルは上向きになっている主である父のトライアングル（A1-B2-C3)と同一になります。現在のパーソナリティーである私達が絶対存在のアイコン（＊像）であり、それに似ているのはそのためなのです。

 私達が最初はアイコンである理由は、無知の中にある現在のパーソナリティーとして、私達が真の本質である特質を現していないからです。しかし、類似したものとして、確かに私達は私達の本質の特質を現しています。それらの特質を表現することができ、超意識であるセルフ・エピグノシスの状態に到達できるというスパークは、全ての人の内にあります。このポジション、つまり最初の十字架による磔に到達して初めて、いわゆるエクソマトシスの現象、つまり完全に超意識的で自由意志による体外離脱が生じるのです。

　　A10のポイントからA9のポイントまでには、パーソナリティーにはやるべきワークが沢山あります。A10の波動では、現われは五感を通じており、これらの五感は無知を特徴づけるものです。フォーカスする対象は物質的なもの、物質に向けられています。下向きの五芒星は無知、暗黒の象徴です。真理の探究者はこのポジションを変える必要があります。A9のポイントに到達すると、いわゆる五つの超感覚が表現され、それらは実際、もはや無知の制約の中にはない現在のパーソナリティーのセルフに属します。

　　以前のレッスンで、無知にあるパーソナリティーでもそれら五つの超感覚を使うと述べましたが、それは意識して使うのではありません。実際、五つの超感覚は、それを通じて現在のパーソナリティーが超物質とサブスタンスの世界、つまりサイコノエティカル界で表現される手段なのですが、残念ながら無知の中にいる現在のパーソナリティーは意識をもってそれらの世界に住むことがないのです。

　　現在のパーソナリティーが、全ての人に属するわけではなくて誰かに属する道、Aの道を上昇すると、その人は自分自身を道であり真理であり命である、と呼んだのです。実際、旅のスタート地点以外の何ものでもないそのポイントに戻る道は、それ以外にはないのです。

　　過去において多くの神秘家達が他の道を通って上昇しようと試みましたがそれは不可能でした。他の人々は自分たちが実際にしていることを知っていたので、それを利用しました。現在のパーソナリティーはこの三角形の中の全てのポジションを良く知る必要があり、そうすることによって現在のパーソナリティーは自分がロゴス的現れであるのみならず同時に聖霊的現れでもあることを認識するようになるでしょう。なぜなら、人間はまたアークエンジェルでもあるからです。ですから、このポジション（Aの柱上で、B7・C8のレベルとの交差地点）に到達すると、それは諸体を支配・マスターしていること、現在のパーソナリティーをマスターしていることを意味します；その時初めて現在のパーソナリティーはまたアークエンジェルとしても表現されることができるのです；現在のパーソナリティーは特定のアークエンジェルのオーダーを表現することはありません。なぜならアークエンジェルの全てのオーダーのセルフ・エピグノシスを有するからです。

私達の兄弟であるアークエンジェル達はグループに属しています；様々なオーダーがあり、各オーダーにはなすべき特定の仕事があり、アークエンジェル達は他のアークエンジェルのオーダーの黙想の中に入ることはできません。しかしながら、人間は自らのアークエンジェル的ヒポスタシス（＊その状態にあること）を達成することによって、いかなるアークエンジェルのオーダーの黙想の中にも入ることが可能です。

　　人間がそのポジションに到達すると、その人には創造界へのロゴス的下降と聖霊的下降の違いを知ることができます。人間のイデアを通じての下降は、セルフ・エピグノシスの能力を伴うロゴス的下降であり；それは同時に聖霊的でもあるのです、なぜならLifeの特質の一つは意識だからです。

　　存在の諸世界にある人間は意識としてLifeそれ自体の特質を完全に現しており、他方、Lifeの現象として実存の世界にいる間は、その人は本能、潜在意識、意識、超意識である意識のセルフ・エピグノシスといった様々なレベルの意識を現しています。

page5

　　ロゴス及び聖霊としてのLifeの意識は、Lifeの現象によって表現されるいかなるレベルの意識よりも、いわゆる超意識である意識のセルフ・エピグノシスよりも、遥かに高いレベルの現れです。

“生命の木”のC5のポジションにあるアークエンジェル達は自らの黙想の結果として、植物界および動物界といったあらゆる他の王国を創造します；それゆえ、人間はそれら全ての他のLifeの形態には関係していません。

　　なぜ、多くの神秘家達は創造界へのロゴス的下降と聖霊的下降について混乱しているのでしょうか？その理由は、ここ(A10)にいる間、このトライアングル、つまり現在のパーソナリティーを示すトライアングルをまず最初にマスターする代わりに、彼らはテクニカルな手段（様々なマジックの形態）によってパワーと能力を表現することにフォーカスしているからです。人間は何よりもまず、自分自身の現在のパーソナリティーについてワークすべきです。何よりもまづ、意識とセルフ・エピグノシスの諸センターについてワークし、そのようにして気づきのレベルについてワークすべきなのです。

　　私達がエピグノシスと言う時、それはロゴスとしての質を意味します；それは経験を得る能力を与え、経験を通じて他人の“I'ness”（私であること）とは異なった“I'ness”、いわゆる個別性を現す能力を与えます。つまり、他の誰かの“I'ness”とは異なった存在として、“私は私である”(I am I)と言えるようになることです。

　　セルフ・エピグノシス(Self-Epignosis)を自己の気づき(self-awareness)であると言う人もいますが、それは大いに間違っています。なぜなら、気づきは無知の中にある結果として創造されるのであり、思考・行動の仕方として様々なレベルの気づきがあるからです。それゆえ、神秘家や（＊人々を導く）道の中には、ロゴス的下降と聖霊的下降の間に違いがあることを認識しないものもあるのです。彼らはA10 からC8にいたる聖霊的な上昇を登ることによって自分たちの兄弟であるアークエンジェル達と知り合うことをしないのです。これはいわゆるヤコブの梯子（はしご）であり、ヤコブの梯子には14の段階があります。これらの様々な段階にどのようにしてアプローチするかは、それぞれの神秘家次第です。

　　こちらのサイド(10AからB7)には、いわゆるヘラクレス（＊ギリシャ神話。ゼウスの子で不死を得るために12の難業…ライオン退治、猪の生捕り、家畜小屋掃除、アマゾーンの女王の帯の奪取、地獄の番犬の連れ出しその他…を遂行したと伝えられる英雄）の12功業、つまり、飼い馴らされていない、**退治すべきエゴイズムの様々な側面があります。パーソナリティーがこれらの怪物に直面できるようになるためには、半神半人の質を現す必要があります。これらの怪物と向き合おうとするいかなる試みも、すぐに失敗に終わるでしょう。現在のパーソナリティーは、半神半人であるヘラクレスを表現するレベルまで強くなる必要があり、その時初めてこれらの怪物、つまりエゴイズムの様々な側面を殺す試みが可能となるのです。エゴイズムの側面は大ざっぱに言って10ありますが、例えば古代ギリシャのように、その数が12あると言うところもあり、そのために12という数が神聖であると見なされているのです。それゆえ、オリンパスには12の神々がいるのです**。

　　過去の人々が創造界への人間の下降に関して幻想を抱いていたその理由を、探究者の皆さんが理解できることを願っています。多くの人々、驚くべき能力の持ち主ですらこのリアリティーを見ないで、人間である私達が進化の結果であり動物の子孫ですらある、と信じている理由を、理解できることを願っています。

　　自己実現のレベルに到達した人間は、同時に自分たちのアークエンジェル的ヒポスタシスを表現することができ、兄弟であるアークエンジェル達と一緒に共同作業することができるのです。兄弟であるアークエンジェル達が行い、創造できるものは何であれ、自己実現した現在のパーソナリティーである人間にも可能なのです。

page6

　　従って、人間はLifeのいかなる他の形態でも創造可能であり、他のいかなる形態でも物質化し、それに息を吹きかければ、その形態は息づき始めるのです。そうです、人間は動物、植物などいかなる生命形態でも、Lifeの王国から創造できるのです。しかし、どのような理由で？あなた方はいかなる形態、どんな種類の動物・植物、なんでも創造できるのですが、その理由は？そうです、残念なことに、過去にはしばしばこれを行った神秘家達もおり、彼らはそれらの生物を自分の召使いとして利用していました。この地球上における総体的な人間の気づきのレベルの結果、そのようなことはもはや許されていません。

　　ですから今や、意識的のみならず超意識的に生きている現在のパーソナリティーがいますが、しかしそれはインナーセルフの特質を完全には現していません。なぜなら、その現在のパーソナリティーはいまだ永遠のパーソナリティーあるいは魂のセルフ・エピグノシスとして表現されていないからです。

　　神秘家である探究者が、存在の諸世界に入ることができると主張することは可能でしょうか？答えはノーです。なぜなら、存在の諸世界に入るということは、転生のサイクルを背後にして去り、もはや現在のパーソナリティーのフィルターを通じて現れない、ということを意味するからです。

**存在の諸世界は魂のセルフ・エピグノシスのためにあり、**自由に存在の諸世界に入るレベルに到達した人は誰でも、この地球上の最後の人間がそのレベルに到達するまでは、そうしないからです。それらのパーソナリティーは他の人々を助けるために転生のサイクルの中に留まります。さもないと、もし自分たちの兄弟・姉妹達を背後に残して去っていくなら、彼らはどのような愛を表現できるというのでしょうか？

　　存在の諸世界に入りながら、依然として転生のサイクルの中で現在のパーソナリティーを現すことは、そのサイクルが制限の下にあるか否かにかかわらず、誰にもできません。そのパーソナリティーにとって、恐らく意味は実際に存在しないかもしれませんが、それは関係ありません。そのパーソナリティーは実存の世界で転生のサイクル内に留まり、存在の諸世界には入らないのです。確かに、何らかのやり方で無定形なスーパーサブスタンスの世界に入ることはできますが；それは高次ノエティカル界であり、存在の諸世界であるノエティック界ではありません。なぜなら、スーパーサブスタンスが実存の諸世界に入るのは、ノエティカルな諸世界の上部までだからです。

神秘家達、過去の偉大なマスターの中には、いわゆる三番目のヘブンに到達した、と主張する人もいます。確かに彼らはいわゆる三番目のヘブンに到達しました。そうです、確かに彼らはそのポジションに到達し、自分が全ての中に広がったと主張しています；中には自分の個別性が失われることに恐怖を感じた人もいました。聖パウロは、三番目のヘブンに到達したと述べ、全ての中に広がりながら、しかも“I"ness”（私であること）の感覚を保ちながら、全てが全ての中にある感覚について述べています。

　　ですから、**現在のパーソナリティーは実存の世界のためだけにあり、魂のセルフ・エピグノシスにのみ属する存在の世界のためではないことを、心に留めておく必要があります。**いかなる神秘家といえども、存在の世界を知っていると主張することはできません。それらの世界について私達が提供するのは全て内側から来る情報であり、経験に基づいた知識ではありません。過去に述べたように、それは内側から来る知識か、あるいはそれらのリアリティーに住んでいる私達の兄弟達によって提供されたものです；同じことは絶対存在についても言えます。誰も、本当に誰も、実存の世界にいながら神を見る、絶対存在を見ることはできないのです。私達、真理の探究者は探求し、それを続けます。私達は絶対リアリティーについては知らず、相対リアリティーの様々なレベルについては知っていますが、それ以外のことは知りません。

page7

　　再び繰り返しますが、エクソマトシスは肉体からサイコノエティカル体を分離させ、それによって意識であるセルフ・エピグノシスによって自由に使用される現象ですが、そのためにはまず最初に現在のパーソナリティーの諸体をマスターする、言い換えれば現在のパーソナリティーの不定形な形を再形成し整える必要があります。

**エクソマトシスは常に、サイコノエティカル体を肉体から分離させるために、肉体を眠らせて行なわれます。**

**さもなければ、エクソマトシスは行なわれません。そしてそのパーソナリティーの大部分の意識はサイコノエティカル体に移行され、肉体から分離した体として使用されます。目覚めた時に、そのパーソナリティーはその間に起こった出来事を完全に記憶しています。**

　　肉体が眠っていない時に行う、エクソマトシスの別のやり方があります。パーソナリティーは一時的に肉体に意識を保持し、肉体がサイコノエティカル体から離脱するのを見ることができ、同時にそのパーソナリティーはサイコノエティカル体の中にいて、肉体を見ることができます。勿論、これはサイコノエティカル体が肉体の近くにいる時にのみ可能ですが、そのパーソナリティーがもっと遠くに行く必要がある時には、意識はサイコノエティカル体の中に置かれ、肉体は眠ります。

　　エクソマトシスを行うということは、その人がLifeの特質である多様性の能力を表現してることを意味します。彼あるいは彼女はサイコノエティカル体と同じ体をいくつでも好きなだけ創造することができ、同様に意識も同じそれぞれのサイコノエティカル体の中に広がります。他方、もし肉体が眠りにつかない場合、その時生じるのはいわゆる意識の投射です。つまり、助けるために、五つの超感覚を時間・空間の意味の中に投射するのです。この場合には、多様性の表現は限られています。

　　パーソナリティーが、波動が最も低い粗雑な物質界で何か特別な仕事を行いたい時には、そのパーソナリティーはサイキカル体の波動を下げて、粗雑な物質のバイブレーションでサイコノエティカル体を身にまといます。そうして初めて、粗雑な物質はそのパーソナリティーのために堅固になり、干渉することができるようになるのです。しかしながら、パーソナリティーがこの状態にある時には、無防備なので、多いに注意する必要があります。なぜなら、堅固であるが目に見えない、物質のダブル・エーテリック（エーテル体）をまとったサイコノエテュイカル体を何かが打つと、直ちに肉体に影響を及ぼすからです。言い換えれば、その影響は自動的に肉体に移行する、ということです。

私達は常に神、絶対、神の聖性に抱かれています。

　EREVNA/MAC17.WPD/M/E/PK14